

令和6年度 第2回加西市総合教育会議 会議録

1 開会日時 令和6年10月22日（火） 15時30分

2 閉会日時 同 日 16時50分

3 開催場所 加西市役所 5階大会議室

4 出席委員

市 長	高 橋 晴 彦
教育長	菅 野 恭 介
教育長職務代理者	中 川 和 之
委 員	楠 田 初 美
委 員	深 田 英 世
委 員	荒 木 努

5 委員及び傍聴人を除き、会場に出席した者の氏名

政策部部長	深 江 克 尚
政策部 政策課長	柿 本 尚 一
政策部 政策課係長	谷 口 成 俊
教育委員会事務局 教育部長	伊 藤 勝
教育委員会 次長兼教育総務課長	井 上 英 文
教育委員会事務局 学校教育課長	小 坂 卓 司
教育委員会 こども未来課長	阿 木 博 信
教育委員会 生涯学習課長	北 島 悦 乃
教育委員会 図書館長	桜 井 雄一郎
教育委員会 総合教育センター所長	三 村 尚 彦
教育委員会 学校再編室長	中 井 孝 浩

6 傍聴者 一般：5名、報道機関：0名

7 協議事項

（1）令和7年度予算について

（2）小・中学校の再編の進捗状況について

8 その他

9 会議内容

別紙のとおり

会議録

次第

- 1 市長挨拶
- 2 教育長挨拶
- 3 協議事項

(1) 令和7年度予算について

〔意見・質疑〕

市長 担当課ごとに意見交換ができればと思います。まずは、教育総務課の関係からよろしくをお願いします。

委員 熱中症対策の関係で、体育館の冷房施設の整備については、気候変動により気温が上昇している状況からも、順次やっていただきたい。もう1点、運動会や体育の授業もあるので、ミストシャワー等の整備をお願いしたい。体育館の冷房設備に比べれば安いと思う。

市長 令和11年度に熱中症対策を予定されている小学校があるが遅すぎる。事業効果を考えた時に、統合していない小学校には多くの学童がいるので、統合を待たずに前倒してやるべきである。キュービクルの関係で整備費に4,000万円程度かかるが、体力向上のこともあるので前倒しでやっていただきたい。統合しない北条小学校、北条東小学校は児童数が多いので、そういうところの対応をしていかないといけない。

委員 令和8年度、令和10年度に熱中症対策の計画が空いているので、そういったところで予算をあげてはどうか。

委員 遅くなれば金額も上がる可能性もある。

教育長 前倒して整備できるように考えていきたい。

市長 プールの管理費にはお金がかかる。夏休みの利用も少なくなってきており、北条高校ではプールの授業を行っていない。プールの授業は必須ではなく、都会ではプールの授業をしなくなってきている。また、トイレは地域の方の利用もあり、要望も強いのでバリアフリー対策はやっていただきたい。

事務局 高校でのプール授業は選択制になっている。

委員 気温と水温を足して一定の温度になるとプールの利用ができなくなる。昔なら夏休みに練習して9月に最後試験という流れだったが、今は状況が変わってきている。

事務局 西在田小学校校舎の北側のグラウンドは、ゲートボールで利用されており、地域の利用者から、プールにあるトイレについて洋式化の要望を聞いている。

市長 地域の方が利用されているトイレは別として、学校のプールの必要性について疑問を感じている。

教育長 小学校に関しては、今後そういった話が出てくると思うが、中学校については、体育の教員中心に、プールの授業は水難事故の防止を含めてやっていきたいと希望があるので、そういったことをどのように考えていくか、今後検討させていただきたい。

委員 他の市町では、民間のプールを利用しているケースがある。加西市のスクールバスの利用は朝と夕方だけとなるので、昼間の空いた時間帯を利用して、何かできないかと思う。

市長 次は学校教育課に移る。

市長 大阪・関西万博への参加については、県からの指導であると思うが、先生の負担にならないか。

事務局 中学校は全員行くので教員がそれなりにより、小学校は4年生以上が対象であり、校区ごとに行くことを考えている。我々指導主事も可能な限り一緒に行こうと思っており、安全確保をしっかりとやっていこうと思う。

市長 バス代費用もかかるので無理のないようにやっていただきたい。滞在時間のことも考えれば行くだけになる可能性があり、この件はまた協議させていただきたい。

委員 県補助はないか。

事務局 入場料はあるが、バス代はない。

市長 交野市は、バス代と安全確保の関係で参加できないと表明している。そういった自治体より遠いところにある加西市から行けるのかと思う。

委員 パビリオンの出展候補を確認したが、STEAM 関連では、AI 機能を使って将来どうなっていくかという体験コーナーがあり、内容が充実しており1日では回れないのではないかなと思う。滞在時間はたっぷりともってほしい。

市長 行きと帰りで5時間程の時間がかかる。

委員 1970年の万博の時に中学生だったが、非常にインパクトがあった。

事務局 ほとんどが家族で行くことになると思うが、逆に行けない子ども達にもこういった機会を作ってあげないといけないと思う。

市長 学校司書は先生の人数がいないので難しいのではないかな。

教育長 学校再編して、学校数が少なくなれば、各学校に司書を配置することは考えられない。東条学園も司書1人を置いており、活動としては司書がいるといないとでは充実したものになるのは間違いないので、そういったことも含めて検討していきたい。

委員 西本智実さんの件だが、1年置きに校区ごとに支援いただいているが、忙しい人なので、一度に多くの学校児童を集めて実施していただけたらどうか。

市長 通学バスの利用が関係してくる話かと思う。バスのチャーターが困難であるから集まらない状況にあるかもしれないが、今後、スクールバスでの朝夕登下校が始まると、昼間の時間帯が空くので、そういった時間帯の利活用を検討していかないといけない。

教育長 西本さん指揮演奏は市民会館で行っている。今年度は休日に実施しており、親御さ

んに送り迎えをしてもらった。もう一点問題がある。子ども達を一同に例えば 200 人集まって指導となると現実的に指導しきれない。今回、九会小学校の 5、6 年生で 100 人であったが、指導するのに丁度良い人数であった。今後、大人数であった場合の対応について相談しながら考えたいと思う。

委員 指導を受けて練習している風景を皆に観てもらおうということはどうか。

教育長 それは可能である。

市長 こども未来課の関係に移る。

市長 保育士確保の財源内訳は何か。

事務局 単独事業であり、ふるさと納税を財源として実施している。令和 3 年度から実施しており 3 年間限りとしていたが、財政協議のうえ令和 8 年度までの補助要綱としている。

市長 学童保育施設について、新たな施設を建てるのではなく学校教室の利用を教育委員会のなかで検討いただきたい。新たに建設するより、冷房等を既存施設に設置するほうに財源を回した方が良いと思うので、そういった意識で学校の先生も教育委員さんも考えていただきたい。

委員 今回の学童保育施設の整備は小学校の集会室の改修である。

教育長 今後、市長が言われるようなことを踏まえて考えていきたい。問題なのは、教室を学童保育で使うことになれば、来ていただいている学童保育の支援員と学校の理解が必要となってくるので、その辺りは研究させていただきたいと思う。

市長 学校の教室や特別教室は利用できないのか。

教育長 学童保育に対する考え方が、学校は学校、学童保育は学校外という考え方がある。かつては学校教室を使ってやっていたが、意思疎通がうまくいかずに問題があって、学校側から学校の外で学童保育をやってくれということになった。経費のことを考えれば、市長の言われるようなことを考えていかなければならないと思うので、学校と協議をする必要がある。

委員 全国の中で、学校教室と学童保育室の兼用の事例があると思うので、その辺りを調査いただきたい。

市長 次は生涯学習課に移る。

委員 埋蔵文化財整理室の移転先として旧校舎を候補に考えていただきたい。1 つ校舎があれば出土品等を展示して美術館のようになったら良いと思う。

委員 旧図書館の手狭な状況や雨漏りもあったと思うが、今回の学校再編によって大分空校舎が出てくるので、2 年、3 年今のままがんばってもらって適切な場所に移してもらえたら良いと思う。

委員 そういうところであれば、盗まれることもないし、1 つに集積されるのでそういう形でやっていただけたらと思う。

市長 統廃合の関係で、泉地区で校舎の空きが出てくる。素案を作って検討をしているところであるので、優先的にそういうことに使うことも検討していきたい。

委員 オークタウンもかなり年数が経っているが、イングリッシュキャンプもされているようなので、こういった研修施設もおいおい考えていただきたい。キャンプ場もボコボコの状況となっている。

教育長 去年より大分きれいに整理しているが、やはり、場所的に日も当たらないし、斜面になって水も流れてくるので、なかなか難しい。今は夜のキャンプは危ないので、昼間しか受入していない。キャンプをする施設としては別の施設が良いのかと思う。色んなところに施設があるより、一定集約させた方が良いと思うのでその辺りは考えさせていただきたい。ただ、オークタウンの利用は市内だけではなく市外からも結構ある。キャンプ利用もそれなりの利用件数があるので、その辺りも見据えて考えていきたい。

市長 次に総合教育センターに移る。

市長 昔から不登校生が全国平均より多い状況であり、担当の方でも頑張っているところであるが、今の状況はどうか。

事務局 高い状況にある。

委員 フリースクールが出来たお陰で、不登校生の中には自分の居場所ができた子もいる。学校へ戻るのはなかなか厳しいと思うが、学校に行きたいのに行けない子どもの居場所になっているので、中学校の整備ができたので、これから小学校の方でも整備を進めていただきたい。

委員 中学校全校にフリースクールを整備されたが、フリースクールに通うお子さんの割合は増えているのか。

委員 自分の意志で行きたい居場所があって、その子が居場所を求めて行くところになるのでフリースクールは行く、行かないは関係がない。割合が増える、増えないは置いておいて、居場所を作ってあげる目的で作っているのもそれで良いと思う。

教育長 フリースクールに行っている子の中で、教室に入れるようになる子もいるし、フリースクールのままの子もいる。現実的にはフリースクールやふれあいホームに行けない多くの子どももいるので、必ずしもフリースクールがあるからと言って誰もが行けるようなことにはならない。選択肢を増やしているイメージかなと思っている。自分が行っても良いかなと思ったら、今までだったら学校教室に行かなければならないとハードルが高かったが、フリースクールがあることによって、まずはフリースクールに行ってみようと思ってくれる子が1人でも出てきたらと思う。北条ではフリースクールに行っている子が比較的多い。泉や善防は元々学校が大きいので、そんなには多くないが、そこにはニーズがないという訳ではない。

委員 校内のフリースクールはちょっと学校へ行っているという気持ちが出てくる。設置の

時はどうなるのかと思ったが、今は良かったかなと思っているので継続していただきたい。

委員 学校に行こうというきっかけがあれば少しずつでも変わっていけると思う。

委員 発達支援アシスタントだが、障害をもった子が増えてきているので、これも是非お願いしたい。

市長 体験学習の交通補助だが、スクールバスの関係の方針にもよるが、全て委託ではなく、一部直営も検討していただきたい。委託は費用が高くなるので、例えば運転だけ委託することも考えられる。近隣の市を見てもバスを何台か購入して保有しているので、購入していくことも考えている。それを地域交通にも活用して色んな課題解決に繋げていきたい。色んな団体が弱体化しているなかで、そういうことも検討していきたい。

市長 次、図書館に移る。

委員 電子図書はスマホで読めるので、わざわざ図書館まで行かなくてもいいと考えてしまうが、アステシアの中のアスモや図書館等の施設があるので、そこに行った人にはポイントを付与して、そのポイントを使ってアステシア内で買い物ができたり、周りの施設を絡めてやったら図書館の集客にも繋がると思う。それと、図書館で55冊を読むと、トートバックが当たるイベントがあるが、もっと良い物がないのかなと思ったりしている。アステシアの中には色んな施設があるので、いろんなものを絡めて集客のことを考えて、ポイント化して市から還元するような仕組みがあったら良いなと以前から思っている。

(2) 小・中学校の再編の進捗状況について

〔意見・質疑〕

市長 アンケートをすると良いものになる反面、使い勝手が悪くなる事がある。

市庁舎は中央を吹き抜けにしたことで、東西の渡り廊下が作られ会議室や倉庫が作れない構造となっており、1階は明かりが入り難く暗い。当時、議会棟も含めて贅沢な作りで建設したが不便である。シンプルな作りが一番使い勝手が良く、実用的であり、費用も少なくて済むので、あまり過度に希望を抱かさないようお願いしたい。

市長 加西中学校のプールが建設して5年程度で新しいので、新中学校にはいらないのではないかな。

教育長 体育の教員は必要と言っている。

市長 利用頻度の事を考えれば作る必要があるのか疑問であり、お金の面も考えて一度協議いただきたい。

市長 学校を建設するための元手として、建設費の25%が必要となり、それまでに基金に積み立てておいて建設時に活用することになるが、例えば、建設費が100億円なら25億円となりとても無理である。時代は違うが北条中学校の校舎建設費は8億6千万円だった。資材高騰しているのは分かるが、学校の希望もよく考えていただきたい。

教育長 そこは教育効果を最大に、出来るだけシンプルに考えてきたい。

委員 ハード面ではなくソフト面で力を注いでいただきたい。

市長 今後、人件費もあがってきているので、今のままでは対応できない。そういう認識をもっていただいて検討いただきたい。

4 その他

委員 学校の配布物について学校と関係のないチラシや案内が配布されている。ものすごい数の印刷物が各学校に届いて、先生が配って、子どもが持って帰っているが、保護者は全員メールアドレスをもっており、また、各学校にはアプリがあり、スマホに情報が届くようになってきている。配りたい人は見てもらえればそれでいいで、アプリかメールであれば遡及効果も高い。データで市から送るのか、学校から送るのか、仕組みをどうにかできないか。

教育長 沢山のチラシ等を学校から配るよう持ってこられる。人数分刷って持ってこられるものもあり、学校としては配らない訳にはいかない現実がある。

委員 紙はどこかにいってしまうが、メールやアプリならデータが残るので、その方が見られると思う。

教育長 チラシ等については教育委員会以外の物もある。学校の関係の物であれば、今後、校務支援システムがあるので、電子的に送るという意思確認ができれば対応が可能となり、学校の方もそれで助かると思う。

委員 メールでPDFをデータ送られるものや、アプリで送られるものがある。全体を1つのデジタル化した仕組みでできないか。

教育長 それを、校務支援システムの中で全て一元的に整理していきたいと思う。

委員 かさいライフナビの活用はどうか。

教育長 かさいライフナビは各区長や市から緊急連絡等の発信ツールであるので、学校からの情報発信はrule的にも行わない。何でもかんでも情報が来ると緊急の時に困るという意見も聞いており、逆に情報が来なくなるとアプリが後ろの方にいってしまい見る習慣もなくなるので、その辺りはバランスだと思う。市の方にも協力していただいて良い方法を検討していきたい。

事務局 小学校から、かさいライフナビを使って下校が早まった旨の連絡が見守り隊へ行っている。

教育長 かさいライフナビ、チラシ類の送り方については、整理が必要であると考えている。

委員 団体が持ってこられているチラシの印刷費は団体が負担しているのか。

事務局 有料の配布物は受け付けておらず、印刷費も団体持ちである。

市長 団体からもPDFで送る等検討いただく必要がある。